

(基本情報)

会議名称	第 6 回 立川市第 5 次地域福祉計画策定検討委員会 第 6 次地域福祉市民活動計画策定委員会
開催日時	令和 7 年 1 月 15 日（水曜日）午後 7 時 00 分～9 時 00 分
開催場所	立川市役所本庁舎（2 階 210 会議室）
次第	1. 委員長あいさつ 2. 前回部会ふりかえり 3. 次期計画の素案について 4. その他
配布資料	1. 第 6 回作業部会 記録 2. 市次期地域福祉計画素案 3. 第 6 次地域福祉市民活動計画素案（目次のみ） 4. 両計画体系比較図 5. 事前シート 6. 市次期計画ダイジェスト版
出席者	〔委員〕 熊田博喜（委員長）、藤原紀子、大江尚之、齋竹一子、菅根浩子、井村良英、太田なつみ、岡本彰子、中村ひとみ、富山孝雄 〔事務局〕 ＜立川市＞ 小平真弓（地域福祉課長）、田中真吾（地域包括ケア推進係長）、竹森雅人（地域福祉推進係） ＜立川市社会福祉協議会＞ 枝村珠衣（地域活動推進課長）、小山泰明（地域づくり係長）、内金崎快、高橋美季、吉田理恵（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市 福祉部 地域福祉課 地域福祉推進係 電話 042-523-2111（代表）

(議事要旨)

【1. 委員長あいさつ】

- ・委員長よりあいさつがあった。

【2. 前回部会ふりかえり】

- ・資料 1 に基づき、社会福祉協議会事務局より前回作業部会のふりかえりを説明した。

【3. 次期計画の素案について】

＜事務局（市）＞

今回の委員会では主に市次期地域福祉計画について議論いただくことを説明し、資料 2 から資料 6 に基づき素案の説明をした。

以下、主な意見等。

- ・市と社協の計画体系図は、共通した理念を掲げているので、一見してわかるような見開きで掲載してはどうか。両計画が一体的にわかるよう、またそれぞれの共通するところや、どのような作りなのかがわかるようにすると良いと思う。

→表現方法については委員長預かりとして、事務局と検討することになった。

- ・関係機関という言葉の中に、「企業」も含まれていることがわかる表現にしていきたい。

- ・素案 21 ページの「②自治会」について、力を入れている健康フェアについては、個別の項目にしていきたい。

- ・素案 26 ページの「(5) 立川市の現状、課題、強み」について、福祉的な観点以外の将来の見通しについて危機感を感じさせる内容も必要ではないか。

→＜事務局（社協）＞この部分は地域福祉に関するアンケート等の調査から導き出された結果から重点推進事項へとつながるような記載の仕方となっているため、ご意見いただいたことについては、冒頭の部分で記載するように検討させていただく。

- ・素案 30 ページの目標「互いにそれぞれの得意なことを活かし、自分らしく暮らせるまち」について、得意なことがないと言う人もいる。

- ・計画の本文の中で行政の専門用語が出てくることは仕方ないことで、巻末の用語集では掲載があるが、難しいこととは思いますが、本文の中で読みやすくする工夫などご存じであれば委員に意見を挙げてもらいたい。

→＜委員＞読みやすいフォント（字体）はあると思う。また、素案の中で使われているイラストやデザインなどに違和感を覚える。あえてくだけた印象のものは使わなくていいのではないか。

・素案 34 ページの取組の方向性にある「誰一人取り残されない」という表現については、表現が強すぎると感じるので違う表現にできないか。

・「誰一人取り残されない元気な地域づくり」の「元気」という表現について、「差別がない地域」、「差別解消」という意味合いを加えたほうがいいのではないか。

・素案 35 ページにある「狭間の声を拾い上げる」の「拾い上げる」という表現は上下関係を想起させる気がする。

・素案 42 ページの「支えあいを具現化させるために取組を支援する」とあるが、行政は取り組むのではなく支援するというのが気になった。市が取組をつくることで参加する人が増えていくこともあるので市が主体となってほしいと思う。

→<事務局（市）>次期計画のポイントとして支援者への支援を掲げており、地域が主体となることと市が主体となることを並列で記載するかは検討する。

→<委員長>行政が取り組み、そこに参加してもらおうというよりは、地域主体の活動を応援していくというのが基本的な考え方だと思う。地域で活動が生まれる環境作りが大切だが、委員の意見も踏まえて表現を考えていただきたい。

・素案 44 ページの「多様なはたらき（仮）」について、説明が少なく、唐突感があって気になった。

→<事務局（社協）>「多様なはたらき（仮）」に関しては、評価に関するロードマップにもあるように5年間で掛けて、先進地域などの視察などを通して、立川市としての形を検討していく予定となっているため、このような表現となった。見せ方については工夫をしたいと思う。

・素案 46 ページについて、32 ページの地域福祉アンテナショップの位置のわかる地図と関連付けていただきたい。

・素案 46 ページの「ヤング・若者ケアラー」について、「子ども・若者ケアラー」という表現もあると思う。

→表現方法については委員長預かりとして、事務局と検討することになった。

・素案 52 ページの現状と課題の「地域の支援の充実」とあるが、支援者側の荷が重いと感じる。要支援者の協力も必要なので、適切な表現があれば検討してほしい。

・素案 52 ページの取組の方向性の「死後のことを考えて」は、家のことを考えるのは

死後に限った話ではないので、入れる必要がないのではないか。

・素案 55 ページの取組の方向性に、シンポジウムやフォーラムという格式ばったもののほか、イベント等の楽しい雰囲気のことにも併記していただきたい。

その他、コラムや用語、図表のデザイン等に関するご意見をいただき、事務局で検討することとなった。

【4. その他】

計画記載の委員名簿の所属団体名等について確認の依頼をした。また、第 7 回および 8 回の委員会開催の日程についてお知らせした。

以上